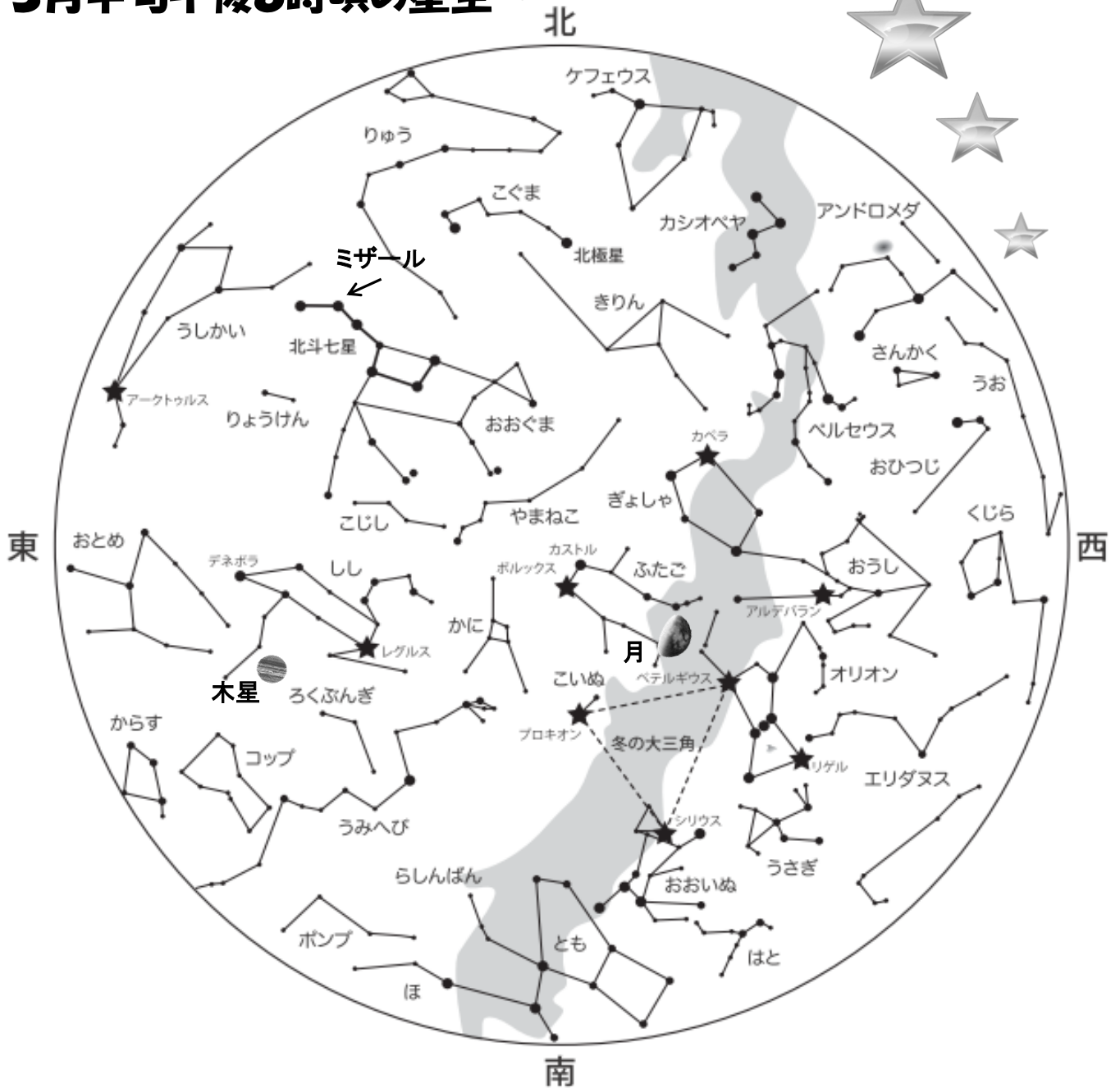


松江市立天文台～3月の天文教室～

平成28年 3月16日

3月中旬午後8時頃の星空～

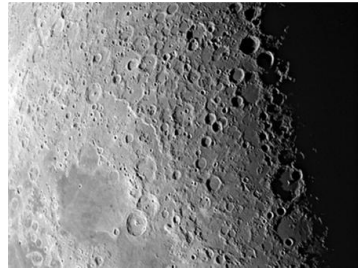


3月20日の春分の日を境に、夜より昼の時間が長くなっていきます。
夜空では、西にはオリオン座やおおいぬ座のシリウスが、東には明るく輝く木星が、そして北では北斗七星が見つかるでしょう。
晴れた日には桜の下で星見もいいかもしれませんね。

3月中旬午後8時頃の星空です。
月、木星の位置は3月16日現在のものですが、見かけの大きさは強調してあります。
この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょう。

今夜の月

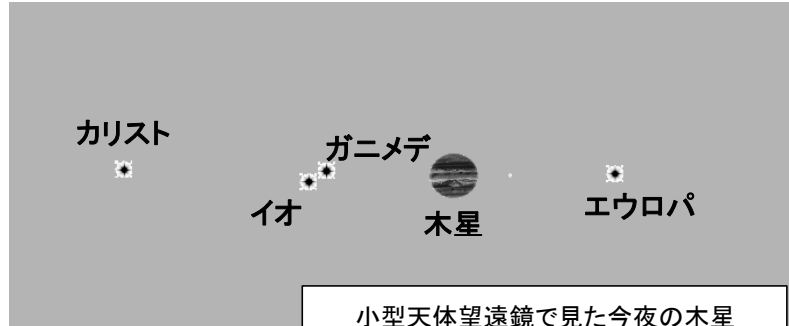
今夜の月は月齢7、ほとんど半月です。
太陽の光が真横から当たっているため、クレーターなど表面の凸凹がはっきり観察できます。



望遠鏡で観察できる月の表面

木星

木星は、太陽系最大の惑星です。
小型の天体望遠鏡でも表面のしま模様や、4大衛星(ガリレオ衛星)の位置を観察できます。
また、今夜は木星表面の巨大な渦、大赤斑も観察できます。



小型天体望遠鏡で見た今夜の木星

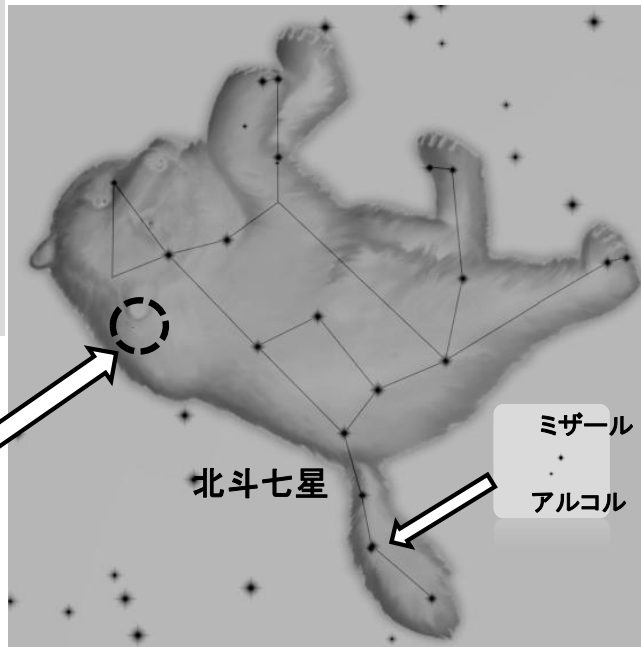
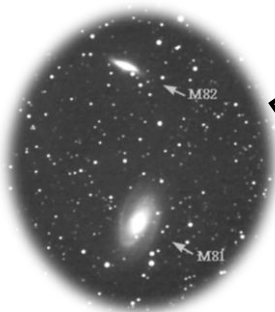
おおぐま座

M81・M82

おおぐま座の頭部付近にある銀河で、二つの銀河が並んで観察できます。

距離は、1790万光年(一説では1200万光年。)のあなたにあります。

最近の研究で、この二つの銀河は、6億年前に衝突したことが明らかになりました。



北斗七星の名称は良く知られていますが、星座では「おおぐま座」の一部です。実際には北斗七星以外の星が暗く目立たないので、星空を見てクマの姿を想像するのは難しいでしょう。

北斗七星の柄の端から2番目の星は、ミザールという固有名を持つ2等星ですが、よく見るとすぐ近くに4等星が見つかります。

この星にもアルコルという固有名が付いています。

さらに天体望遠鏡で観察すると、ミザールのすぐ近くにもう一つ星を見つけることができます。

ミザール
アルコル

資料のデータは天文年鑑、アストロアーツなどから引用しています。
使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えます。
また、空のコンディション(雲、透明度)により、天体の見え方は違います。

次回の天文教室

開催日 4月13日(水) 20時から21時まで
(受付は19時30分から市役所正面玄関で行います。)
事前の予約は不要です。



MAC Matsue Astronomy Club
松江星の会